

# 株式会社ジェイコムイースト 板橋局

## 放送番組審議会 議事録

2015年度 株式会社ジェイコムイースト 板橋局番組審議会は、2016年2月19日(金)板橋局4階会議室で開催された。

### <放送番組審議会委員> (五十音順)

ご出席

坂野 文雄 様

鈴木 静雄 様

原田 曠暉 様

ご欠席

佐藤 利信 様

高橋 泰子 様

三浦 康之 様

事業者側から J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告があった。

#### 【質疑応答・意見交換】 進行：坂野会長

(板橋区のよいところを取材して欲しい)

委員 「ジモトピ板橋」の特集で放送していた青年会議所のイベント、子どもの「はじめてのおつかい」は、見る側にも感動を与えるよい番組であった。他にも、「子どもたちのお弁当作り」等、板橋区内では多数のイベントが行われている。今後も板橋区のよい取り組みを取材し、発信して頂きたい。

(シニア世代も番組で取り上げて欲しい)

委員 板橋区のシニア世代も、町会やカラオケといったコミュニケーション活動が活発である。テレビ画面を通し板橋シニアの元気な姿を発信して頂きたい。

(板橋区の観光活性化推進)

委員 花火大会や区民まつりは、毎年行われている板橋区を代表する素晴らしいイベントであるが、オリンピックイヤーに向けた取り組みとして、外国人観光客をターゲットに、より一層観光に力を入れる必要があるのではないか。コミュニティチャンネルを通し、観光の活性化に貢献して頂けないか。

(板橋区ブランド・職人にスポットを当てた番組制作を)

**委員** 板橋区の良いところ「特徴や特色」をコミュニティチャンネルで取り上げて頂きたい。民放で「職人」にスポットを当てた番組があるが、板橋区内にも優秀な職人は多い。昨今、お笑い芸人が持て囃されているが、なかなか芽が出づらい「落語家」の努力や長い下積みを経て大成する姿にスポットを当てた番組作りはできないか。

**委員** 確かに板橋区に職人は多い。世界の皇族が愛用する程クオリティの高いメッキの靴作り職人もいる。日本ではドイツのようなマイスター制度が整っておらず、このような優秀な職人にスポットが当たりにくい。コミュニティチャンネルで「板橋ブランド」をアピールして欲しい。

#### (外国語対応について)

**委員** J:COMでは、中国語など外国語は番組で対応しているのか。

**事業者** 有料チャンネルやペイチャンネルでは、中国語・韓国語の番組を放送している。

#### (番組ガイド誌の改善、番組の告知強化を)

**委員** 毎月自宅に届く「J:COM Magazine」の誌面は文字が細かく、読みづらい。また、特番などよい取り組みを行っているが誌面での「告知」は少ないと感じる。「見られる番組」でなければ意味がない。

取材依頼したイベントでは、運営側が放送日を明記したチラシを配布し反響を得ている。もっと告知強化を行うべきだ。

#### (視聴者制作番組の放送検討を)

**委員** 視聴者目線で、主婦や子どもといった一般の方が撮影した映像を、コミュニティチャンネルで放送する取り組みを行ってはどうか。自分で制作した番組が放送されると視聴にも繋がる。

**事業者** お菓子の商品開発ではモニタリングが行われ、女子高校生のブランドがブームになるといった、「消費者目線」商品がヒット傾向にある。番組制作においても「作り手目線」だけでなく、「視聴者目線」で番組作りをすることも必要である。

**事業者** 一部のエリアでは既に「市民サークル」が制作した番組をコミュニティチャンネルで放送している。

北区においては先月「北区だいすき！CMコンテスト」を開催した。一般の方からスマートフォン等で、北区の好きなところを撮影し、応募して頂く。入賞作品映像はコミュニティチャンネルで放送を予定。今後は全社的に取り組んで参りたい。

番組制作においては、学生の職場体験・インターンシップの受け入れを積極的に行っている。学生は実際のカメラに触れ、撮影や収録の体験を通して、メディアやケーブルテレビ事業に

興味を持って頂く場となっている。

#### （板橋区の観光活性化）

**委員** 板橋の観光やイベントの集客率増加が望めない。大型観光バスが入れないといったインフラの整備も重要な課題であるが、観光産業の活性化を一緒に考えて頂きたい。

**事業者** 来年度は「板橋Cityマラソン（東京・荒川市民マラソン）」が20周年記念大会となる。生放送等検討していきたい。

**事業者** 都内でフルマラソンを行う取り組みは貴重である。

#### （一般加入者の意見交換の場・視聴者参加型メディア）

**委員** 放送番組審議会以外に、一般の加入者を招いた意見交換の場はあるのか。若い方を含め様々な年代の意見を取り入れた番組作りが必要ではないか。

**事業者** 局では、コミュニティチャンネルのミーティングは現在行っていないが、加入者を招きスマートフォン講座や、生け花教室といった地域活動を行っている。

本部ではCS放送の加入者を招き、頂いたご意見を番組改編時の参考にしている。

**事業者** 私たちは「区民参加」に力を入れている。編成方針に掲げている3本柱のひとつ「より多くの地域の方にコミュニティチャンネルに関わって頂く」とあるが、近い将来は、区民から「記者・特派員」を募りたいと考えている。台風や大雪を含む有事の際は「区民レポーター」として、実際に番組内で「各地域のリアルタイムな情報を発信」して頂き、より一層地域に根ざした番組を区民の皆様と一緒に作りたいと考えている。展望としては「地域参加型メディア」に成長させていきたい。

**委員** 区民の防災意識は変わってきており、ボランティア活動も盛んとなっている為、参加する区民は多いはずである。非常によい取り組みであるので、是非とも進めて頂きたい。

#### （討論番組の放送を）

**委員** 民間の方の「討論番組」を放送できないか。例えば「板橋区の観光についてどう考えるか」といった板橋区の問題や課題に特化した討論会を開催し、コミュニティチャンネルで放送することで行政や関係機関への働きかけに繋がっていくと考える。時代は変化しており、行政番組を視聴するといった受身の立場だけではなく、積極的に働きかけることも必要ではないか。

#### （地域における社会的使命）

**委員** コミュニティチャンネル、J:COMの地域における社会的使命や役割は民放と異なり、大きいと感じる。取材スタッフも住民と一緒に板橋区の社会問題を解決していくよう

なスタンスを望む。多忙であると思うが男女を問わず、ボランティア活動など、もっと地域の中に入り込んで欲しいと願う。

**事業者** コミュニティチャンネルでは事件事故ではなく、地域の明るい話題やニュースの放送をメインとしている。地域のこれからの取り組みや未来についての話題を放送することが役割であると考えている。

**(地域局として地域に溶け込んで欲しい)**

**委員 J** : COMは板橋区の地域局として地域に溶け込み、住民と一緒に問題解決を考えて頂きたいと願う。また、板橋区には様々なボランティア団体がある。小学生・中学生にボランティア活動についてもっと伝えていきたい。

**事業者** ケーブルテレビのスタッフは、取材から放送まで限られた人数で番組制作を行っており、地域活動の参加までには至っていない状況である。今年6月から開始した「デイリーニュース」内で、毎日5本のニュースを放送しているが、情報ソースの入手先が乏しい傾向にある為、今後は地域活動への参加を視野に、地域のステークホルダーや区民団体と接点を持ち、より地域に密着した番組作りを目指していきたい。

**(作り手も楽しめる番組制作を)**

**委員** 制作スタッフは受け身ではなく、主体的に作り手として楽しみ、地域の為になる生きた番組制作をして欲しい。

以上